

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 7



発行日：平成 27 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 30 回山部会WGを開催しました！

11 月 27 日（金曜日）に第 30 回山部会WGが上矢作林業センターにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日時：平成 27 年 11 月 27 日（金）14 時 00 分～17 時 10 分
場所：上矢作林業センター（大会議室）
参加者：19 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について



今年は、山村再生担い手づくり事例集作成の 3 年目であり完結の年です。現在、22 団体の取材を行っています。本日は、取材の進捗状況の確認と今後の予定について話し合います。

①取材の進捗状況

既に取材が終わった団体（4 団体）

◆稲武山里体験推進協議会 ◆おいでん・さんそんセンター ◆有間竹林愛護会 ◆あさひ森の健康診断

今後取材を行う団体（18 団体）

◆飯伊森林組合平谷事務所 ◆天下杉 ◆タ立山森林塾 ◆野外保育とよた森のようちえん 森のたまご ◆農村舞台アートプロジェクト ◆老人福祉センターぬくもりの里 ◆あさひ薪づくり研究会 ◆しもやま再来るプロジェクト ◆あすけ聞き書き隊 ◆山里センチュメンツ ◆コレカラ商店 ◆ファーストハンド ◆トム・ヴィンセント氏 ◆鳥川ホテル保存会 ◆額田木の駅プロジェクト ◆日近太鼓 ◆蒲都市漁場環境保全協議会 ◆島を美しくする会

②今後の予定：12 月⇒中間報告会、12 月～3 月⇒レポートの作成・提出・交通費等の請求

2. 山村ミーティングについて



当初は、山の担い手が一同に会する場づくりが目的でした。現在は、流域内の山の担い手が、一同に会することを本当に望んでいるかを含め、関係機関に声をかける難しさに直面している。

- ①現場仕事を持っている人に、夜に集まれというのは体力的に無理がある
 - ②流域市村によって、森林組合の構成や規模が異なっている（1 ターン中心の組合や地元中心の組合がある）
- 山村ミーティングの進め方について、皆さんのアイデアを伺いたい。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインに関連して、以下の情報提供と検討を行いたいと思います。皆様のご意見をお願いします。

- ①全国植樹祭に関する中日新聞（岐阜地方版）の記事紹介（資料 1）
- ②豊田市中核製材工場の稼働開始、豊田市森林計画のリニューアル（資料 2、3）
- ③岐阜県民協働による森の通信簿事業（資料 4）
- ④恵那市の森づくり推進委員会の現況（資料 5）
- ⑤矢作川流域の特徴的な森林、樹木の地図上での表現方法の検討（資料 6）



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインに関して、現在の進捗を報告します。皆様のご意見とご感想をお願いします。

- ①流域ものさし（スギ、ヒノキなど 12 種類の原木を入手済で年内に見本を作りたい）
- ②あそべるとよた DAYS（11 月にどこでもシーズを出展して、大盛況を得た）
- ②どこでも根羽物置（メッセナゴヤ 2015 に出展して、注文を受けるなど好評を得た）
- ③根羽村の間伐実績によるカーボンオフセットクレジット購入
（下流域の自治体に CO₂ 吸収量を購入してもらい、それを原資として木づかいを推進する）
- ④豊田市浄水北小学校での間伐作業（学有林を活用して木づかいを推進する）



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

＜取材の進捗状況と今後の予定＞

- ・ おいでん・さんそんセンターの所長さんとは初めてお会いしたが、色々なところに関わっておられて驚いた。取材の中で感じたことは、豊田市は地域の担い手に対して、非常に厚い支援を行っていることである。(松井)
- ・ 中間報告会の日程を決めた方がよいのではないか。次の山部会 WG は 12 月 21 日であるが 12 月の夜は忙しいかも知れない。1 月ではだめか。(蔵治)
 - ▶ 中間報告会を 1 月 6 日(水) 19 時より行いたい。場所は豊田市職員会館とする。(洲崎)
- ・ とりまとめについて、イメージとしては 2 月の全体会までに体裁を整えたい。全体会議に冊子があるとインパクトが違う。是非、間に合わせたい。(蔵治)

●山村ミーティングについて

- ・ おそらく現場の技術者たちの根はやさしく、環境や地域に貢献したいという熱い思いを持った人たちである。ただ、恵南森林組合の平均年齢は 40 歳前後であり小さな子どもがいて、材木価格が安い中でコストや技術力向上のことを考えている。しかし、毎日の作業に追われ、なかなか同じ思いを持つ仲間が集まる状況にはない。汗をかくことに意義を感じるボランティア的な方々とは価値観が違うと思う。(小林)
- ・ ボランティアとの共通のテーマとなり得るのは、技能の向上や安全面だと考えられる。技能の向上に関しては、恵南森林組合であれば架線の張り方、我々であれば国道沿いの木の搬出などのプレインストーミングをしてみてもどうか。また、安全面に関しては、特に事故についてお互いの意見を出し合い、改善を議論すべきである。もちろん、お酒を交えると効果的である。(今村)
 - ▶ 色々な状況を考えながら進めていきたい。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜豊田市中核製材工場の稼働開始＞

- ・ 根羽村森林組合でも、実施業者の西垣林業社長よりご挨拶いただいた。西垣社長からは、矢作川流域材という視点から、お互いに補完しあう関係で業務にあたりたいと説明を受けている。(今村)
- ・ 西垣林業の伊藤さんに流域圏懇談会への講演をお願いしたところ了承を得た。そこで 1 月に行われる地域部会にお招きしたいと思う。(蔵治)

＜恵那市の森づくり推進委員会の現況＞

- ・ 恵那市では森づくり推進委員会が平成 22 年に設置され、5 年ごとにとりまとめと新たな目標を設定している。平成 28 年度からの 5 年間は、基本的には前期と同じであるが、伐り置き間伐から利用間伐への転換やバイオマス施設の導入など、再検討を行っている。(原田)
- ・ 地域材利用の拡大に関して、どのような具体的目標を持っているか。(今村)
 - ▶ 恵那市の地域材で柱 30 本以上を使った場合に助成する仕組みとなっている。それは、市外からの定住を目的としており、市内の移住に関しては、税制面で優遇を受けられるような支援を検討している。(原田)
- ・ 公共事業における地域材の利用とは、どのような建物が対象となるのか。(今村)
 - ▶ 学校、幼稚園、役所、公民館などがこれにあたる。(原田)

＜矢作川流域の特徴的な森林・木＞

- ・ 今年度中に成果として形にしたい。位置情報はどの様に収集するか。直接事務局補佐に連絡するか。(蔵治)
 - ▶ どちらでも構わない。どちらでも連絡を取り合うようにする。(大森)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

＜流域ものさし＞

- ・ ものさしの長さを川の距離に対応させると、短い河川では肩身がせまい。規格を揃えた方がよいと思う。(高橋)

＜どこでも根羽物置＞

- ・ 建物は水平を出すのが難しい。その対応パーツなどがキットに含まれるとよい。また、目的が物置だけでなく書斎にもなると需要が高まると思う。(高橋)

＜豊田市浄水北小学校の伐採作業＞

- ・ 恵那市の長島(おさしま)小学校では森の健康診断から木を使うところまでの仕組みづくりを目指している。流域は庄内川水系であるが、川を挟んだ関係ができればよいと思う。(丹羽)

今後のスケジュール(予定)

次回の山部会 WG は、12 月 21 日(月)豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。